

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 剛	所 属	理学部 物質地球科学科 地学系	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・引続き、共通教育科目・専門科目を提供する。「海洋の科学」の授業にキャリア教育の要素を取り入れると共に、学生同士のディスカッションの時間を毎回必ず設ける。継続実施中の共通教育キャリア科目1科目については、外部講師の出講が困難となったため、単独で開講実施する。 ・基礎ゼミの配属学生を通して、1年次から進路を意識した行動(啓発セミナーやインターンシップへの参加)をするよう、助言指導を行う。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・「海洋の科学」については、昼間主113名、夜間主37名の学生に対して、講義を提供した。その際、授業内容がどのように社会で役立てられるかを常に意識させ、また毎回必ず5分間ディスカッションの時間を設けた。キャリア科目については、前期は南城市の「カフェやぶさち」からのミッションに応える内容とし、後期は地域連携推進機構と連携して、県内各地域の課題解決の指導を行った。 ・基礎ゼミは前期に担当し、インターンシップや啓発セミナーの情報が入るたびにチラシを入手し参加を促した。また、10月より3年次指導教員となったため、懇談会では進路決定の重要な時期であることを説明し、就活セミナーやインターンシップなどへの参加を呼び掛けた。 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・非乗船課題として採択された「みらい」チリ航海(平成29年1～2月)のチリ三重点の地球物理データが到着したため、処理・解析に着手する。海域が南極プレート境界を含むため、研究を進めるに当たり、国立極地研究所とも連携する。 ・情報通信研究機構(NICT)との共同研究による沖縄での陸上地磁気連続観測データの解析を、引続き行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・「みらい」チリ航海による新しい地磁気データを加えて、チリ三重点のテクトニクスや拡大海嶺の火山活動の変遷がほぼ明らかになってきたので、12月に国立極地研究所で開催された極域科学シンポジウムで口頭発表を行った。 ・NICTとの共同研究の中間報告として、日本地球惑星科学連合でポスター発表を行った。 	
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育の2科目を公開授業として提供する。また、これらの授業を、サテライトキャンパスに配信する。 ・教員免許状更新講習を実施する。前年度同様、防災教育関係、及びキャリア教育関係の各1科目を、選択必修科目として提供する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・「海洋の科学」(前期水曜7限)及び「天体観測を通して学ぶ宇宙」(夏期集中)を公開授業として開講するとともに、サテライトキャンパスに配信を行った。 ・教員免許状更新講習を2講座提供した。防災教育関係では5名の、キャリア教育関係では20名の受講者があった。受講者の評価は概ね良好であった。 	
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・引続き総合環境学副専攻の主任を務め、他の副専攻担当教員と連携し、副専攻の運営、環境教育のより一層の充実を図る。 ・その他、国際教育専門委員会などの学内の委員会活動を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・総合環境学副専攻主任として、前期・後期のオリエンテーションを実施し、また、環境奨学金(原資が切れたため今年度前期で終了)の奨学候補生の選考等に携わった。 ・全学の委員会として、国際教育専門委員会、国際沖縄研究所運営委員会の委員を務め、また7月より、教職課程実習委員会の委員を務めた。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山田広幸	所 属		理学部 物質地球科学科 地学系	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する講義を、受講者の能力・学習態度を考慮しながら進める。 ・研究室に配属された学生の卒業研究・修士研究の指導を実施する。 ・気象概況説明会「weather briefing」を週1回開催し、学生の気象に対する興味を高め、大気現象への理解を深める手助けをする。 ・研究室に所属する学生、院生の進路や就職についてサポートを行う。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する講義を、受講者の能力・学習態度を考慮しながら進めた。 ・研究室に配属された学生の卒業論文・修士論文の執筆の指導を行った。 ・気象概況説明会「weather briefing」を週1回の割合で開催した。 ・研究室に所属する学生、院生の進路や就職についてサポートを行った。 		
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の研究(レーダーを用いた台風の強度推定)を計画通りに進める。 ・名古屋大学との共同による航空機観測・気象レーダー観測を遂行する。 ・沖縄電磁波技術センターの気象レーダーを用いた研究を進める。 			0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・レーダーによる台風の構造の解析を行い共著者と論文を発表した。 ・名古屋大学や沖縄電磁波技術センターとの共同により気象レーダー観測、航空機による台風ドロップゾンデ観測を遂行した。 		
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・日本気象学会の国際誌JMSJの編集委員を継続する。 ・日本気象学会の一般向け行事に参加し、アウトリーチ活動を行う。 ・沖縄気象台の地域気象に関わる研究のアドバイスをを行う。 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・日本気象学会の国際誌JMSJの編集委員を務めた。 ・気象庁で台風観測に関する勉強会を行った。 ・沖縄科学技術教育シンポジウムや、向陽高校、普天間高校で台風の研究について講義を行った。 ・「子ども気象学士」講習会で小学生向けに台風の解説を行った。 		
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学理学部気象ステーションの維持管理を行う。 ・理学部屋上および瀬底研究施設に設置した名古屋大学の気象レーダーの維持管理を行う。 ・学内で担当する委員の役割を果たす。 			0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・理学部気象ステーションを維持管理し、教育・研究に活用した。 ・名古屋大学気象レーダーの維持管理を行い、教育・研究に活用した。 ・学内で担当する委員の役割を果たした。 		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		伊藤耕介	所 属		理学部学部 物質地球科学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・地学系2年生のクラス担任として、大学生活に関する相談に対応する。 ・修士課程の大学院生向けの授業を充実させ、学生自身で自律的な研究が進められるよう努力する。 ・研究室配属の学生が自身で卒業研究を進められるよう適切な指導を行うとともに、志望通りに就職・進学できるよう進路相談を行う。 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・地学系2年生のクラス担任として、大学生活に関する相談に対応したほか、2年生が地学系スポーツ大会を実施するにあたり助言を行った。 ・修士課程の2名の学生がそれぞれ国際学会でのポスター発表を行うよう、研究指導を行った。 ・H28年度の共通教育科目「大気科学」に関し、琉球大学のプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞した。 		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費基盤Sで実施する航空機を用いた台風観測の研究に対し、得られた観測データを数値予報に生かすシステム作りに取り組む ・科研費萌芽研究で実施している波しぶきの台風強度への影響を明らかにする研究に積極的に取り組み論文を発表する。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・日本初となる台風の航空機観測の実施に貢献し、得られた観測データを用いて予測精度を向上させるシステムを構築した。 ・「京」コンピュータを用いた北西太平洋大気海洋結合モデルによるシミュレーション結果を整理し、予測精度が向上することを示した。 		
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・出版や講演会などの機会を通じて、台風に関連する自然災害に関する知識の普及に努める。 ・これまでの台風研究の成果を気象庁に報告するなど密な連携を図り、応用面での貢献を目指す。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、論文で発表した近年の「台風の強度予報誤差の増大」「台風の急発達率の増加」をNHKスペシャルで紹介した。 ・与那国島や横浜、琉球大学において、台風防災に関する講演を行った。 ・気象庁台風事例検討会で、台風予測研究の最新の知見を紹介した。 		
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・理学部選挙管理委員として公正な選挙管理に努める。 ・その他、広報戦略本部の一員などとして、大学全体、または、理学部の環境整備に貢献する。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・理学部選挙管理委員として公正な選挙管理に努めた。 ・広報戦略本部のSNS活用検討WGの座長として、琉球大学の公式SNSアカウントの利用方針に関する取りまとめを行った。 		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されず。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		藤田 和彦	所 属	理学部 物質地球科学学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学力・関心に合わせた共通教育科目並びに専門教育科目の改善を進める。 ・常に学生とのコミュニケーションを心がけ、進路の相談に当たる。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを意識した講義・実習を行った。 ・卒論・修論を通じた教育に力を入れた。 ・進路について随時相談にのり、研究室の全員が就職内定を得た。 ・研究指導した大学院生が全国規模の学会で優秀発表賞を受賞するとともに、学長賞候補者に推薦された。 	
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤研究B(研究代表者)並びに基盤研究S(分担研究者)の2年度目に当たり、初年度に開始した研究を進める。 ・9月にサンゴ礁地球科学に関する日豪共同シンポジウムをシドニー大学で共同主催する。 ・これまでの研究成果を論文や学会発表として公表する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の研究成果が順調に得られている。 ・9月に日豪サンゴ礁地形学ワークショップをシドニー大学で共同主催した。 ・国際誌1編(第一著者)と国内誌1編(大学院生が第一著者)が受理された。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学内水循環プロジェクトとして、学内教員と協力して島嶼の水問題に関する教育・啓蒙活動を行う。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・学内水循環プロジェクトには積極的に関わることができなかった。 ・7月から日本サンゴ礁学会の学会誌編集長を引き受け、学会誌の編集・出版に尽力した。 	
管理 運営	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・物質地球科学科学科長及び地学系主任として、構成員との対話を重視し、学科・系の運営・教育・研究が良い方向へ向かうよう尽力する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・物質地球科学科及び地学系の管理運営に尽力した。 ・地学系教員の異動とそれに伴う公募人事に対応した。 ・入試受験倍率向上のため、地学系の広報活動を先導した。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中村 衛	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	地球科学I、地球の科学、地震学などの授業に関し、質問・感想用紙を毎回配布して、学生の理解が不十分な点、講義の進め方等について積極的な意見を聴取し、次回以降の授業で生かす。固体地球物理学の授業ではミニテストを毎回実施し、学生の理解度を双方で把握できるようにする。地学インターンシップを実施し、地球科学に係る企業への学生の関心を高める。			0.25	毎回の意見徴収を実施し、ミニテストを実施して説明不足の点を次の授業時に補足説明した。 新たに新設した授業科目「地学インターンシップ」を活用し、地球科学に係る企業へインターンシップ参加する学生(1人)の世話人を担当し、単位認定をおこない、学生の就労への意識変化をもたらすことができた。		
研究	0.30	琉球海溝および台湾での巨大地震津波発生可能性研究を推進するため、他大学・台湾の大学との共同観測研究(津波堆積物、海底地殻変動観測)を進める。またslow earthquakeに関する研究を進展させる。これらの研究成果は国内外で学会発表および学術雑誌(査読有)へ論文投稿する。			0.30	台湾の研究者との台湾での調査は予定通り実施した。沖縄島での海底地殻変動観測も予定通り実施した。研究成果は論文3本(うち査読誌3本)、学会発表19件である。		
社会 貢献	0.25	マスコミを通じた研究広報活動、および一般向け講演活動を行い防災活動・地震知識の普及に努める。地震関係の委員会に参画し、研究成果を生かす。			0.25	地震津波に関する研究成果が新聞(2件)に掲載された。また地震津波災害に関する解説をおこなうためテレビ番組(2件)に出演した。 講演2件をおこない、地震防災関連の会議3件(県外3件)に参加した。		
管理 運営	0.20	代議員および各種委員会委員等で組織運営に貢献する。			0.20	代議員・紀要編集委員会・図書委員会などの委員として組織運営に貢献した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		瓜生康史	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	「物理学入門I, II」「プログラミング入門」「計算物理学」「相対論的宇宙物理学入門」(大学院)の講義及び卒業研究指導を行う。学生の理解度を把握しつつ講義を進めるよう注意する。コンピューター関連科目ではTAを採用し実習時の質問にきめ細かく答えながら講義を進める。研究室所属の4年次学生の進路に関する助言等を行う。また、物理系の宇宙科学に関係する進路を希望する学生に対し助言等を行う。		0.40	学部向け講義については、講義の補助教材としてプリントを準備し、学期中のレポートや小テストにより学生の理解度の把握につとめた。実習補助のためのTAの活用も計画通り行った。大学院生(修士)と相対論的高速回転星に関する論文講読を行った。卒業研究では前期に一般相対論についての輪講を行い、後期に数値相対論について卒業研究の指導をした。研究室の学生に対し進路に関する助言等を行った。	
研究	0.40	科研費基盤研究に関する高密度星計算法の発展的開発を推進し、関連論文を2編投稿することを目標にする。テレコンファレンスや相互訪問を通じて共同研究者との協力関係の緊密化を図る。また、関連する国際会議や学会において研究発表を行う。		0.40	磁場を持つ高密度星に関する理論的な論文1編, 差動回転高密度星に関する論文1編, 3軸不等な回転高密度星のシミュレーションに関する論文1編がPRDに掲載された。定期的なテレコンファレンスを行い、共同研究を推進した。東北大とIllinoi大より共同研究者を招へい予定(3月)。	
社会 貢献	0.10	物理系公開講座の開催に貢献する。昨年度に引き続き、パルサーを解りやすく解説するための教材開発を試みる。		0.10	物理系公開講座の開催に貢献した。パルサーを理解するための教材の基本的な部分を開発し、公開講座で紹介した。この教材は今後継続的に改良して行く。	
管理 運営	0.10	理学部および所属学科の図書委員としての用務を行う。		0.10	理学部および所属学科の図書委員としての用務及びその他の用務を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		稲岡 毅	所 属		理学部 物質地球科学科 物理系
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目「物理学I・II」、専門教育科目「物理数学I・IV」、大学院教育科目「素励起物理学」(前期課程)、「表面物理学特論」(後期課程)を担当する。 ・研究室では、学部4年次生、前期課程学生の研究指導を行う。 ・研究室の指導教員として、就職、大学院進学などについて学生の相談に応じ、学生の進路模索を支援する。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目「物理学I・II」、専門教育科目「物理数学I・IV」、大学院教育科目「素励起物理学」(前期課程)の授業を行った。学部の科目では小テストを2回行い、学生の自己学習を促した。 ・研究室では、指導教員として前期課程1名、4年次生2名の研究指導を行った。 ・研究室の学生の就職活動に気を配り、これを支援した。
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に学術論文を投稿する。 ・所属する学会、研究会で研究発表を行う。 ・科研費の申請を行う。 ・他大学の研究者と共同研究を行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・研究時間の制約からの回復基調にあり、国際誌に学術論文1編(第1著者)が掲載され、1編(第5著者)が投稿中で、まもなく掲載決定見込み。国際誌に学術論文1編(第2著者)をまもなく投稿。 ・国内学会で2件(第1発表者)、国際シンポジウムで1件(第8発表者)の研究発表を行った。 ・科研費(基盤研究C)の申請を行った。 ・他大学の研究者との共同研究のための議論を行った。
社会 貢献	0.05	学部授業科目「物理学I・II」、「物理数学I・IV」を、公開授業として社会人および高校生に公開する。		0.05	学部授業科目4科目を公開授業として社会人および高校生に公開したが、今年度は受講者がなかった。
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価担当の副学部長として、学部と研究科の自己評価業務のとりまとめを行う。学部自己評価委員会の委員長、全学の大学評価IRマネジメントセンター企画員、社会連携に関する自己点検・評価委員会委員を務める予定。また、全学大学院委員会委員を務める。 ・所属系の入試検討委員を務める。募集要項の点検、入試方法の検討などを行う。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価担当の副学部長として、認証評価受審のための学部対応の取りまとめを行った。内容は、提出する自己評価書の点検、訪問調査を控えての質問事項への回答とデータ収集、評価結果の確認などである。また、学部自己評価委員会の委員長として、年3回の年度計画進捗状況の取りまとめを行った。全学の大学評価IRマネジメントセンター評価企画員として全学の自己評価業務に従事し、全学の大学院委員会委員、社会連携に関する自己点検・評価委員会委員を務めた。 ・所属系の入試検討委員を務め、募集要項の点検などを行った。入試関連会議に出席し、志願倍率向上のための所属系の配点方式改良が承認されるように尽力した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		梯 祥郎	所 属	理学部 物質地球科学科 物理系	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	物理学I, 物理学II, 物理数学II, および物性論の講義をととして学生の基礎学力向上に努める。大学院(修士)の講義(固体量子論)並びに研究指導を行い, 学生の修士論文作成を指導する。研究室所属学生の学生生活・就職・進学に対して適切な助言・指導を行う。		0.40	例年通り教育・学生支援の役割を十分に果し, 設定した目標を達成した。	
研究	0.50	第1原理運動量依存電子相関変分理論を遷移金属強磁性体へ応用し, 遍歴強磁性体における電子相関効果の定量的理解を目指す。長距離非局所動的CPA理論を定式化し, モデル計算によって有限温度における非局所電子相関の役割を明らかにする。		0.50	第1原理運動量依存電子相関変分理論に基づく強磁性基底状態の計算をほぼ達成し, 磁化ならびに磁気的エネルギーにおける電子相関エネルギーの役割を明らかにした。長距離電子相関についても研究成果を上げた。	
社会貢献	0.05	学内外からの要請があれば, 随時前向きに対応する。		0.05	学外の入試説明会に出向いて高校生に大学・学部についての理解を深めてもらった。	
管理運営	0.05	附属図書館運営委員会などの委員として学部・全学の運営に貢献する。		0.05	附属図書館運営委員会委員としての業務を果たし, 学部・全学の運営に貢献した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		眞榮平 孝裕	所 属		理学部 物質地球科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	学部学生に対しては、相対論、統計力学特論、統計力学、統計力学演習など必修科目1講義と卒業研究のセミナー指導を行う。また、大学院学生に対しては、物性学特論の講義と特別演習、特別研究の指導を行う。力学、相対論についてはノートパッドを導入し、学生の理解度を把握しながら視覚的に授業を進めていく。物性学特論については、物性物理学の基礎的な事項から出発して、研究の最前線で行われているテーマについても講義する。卒業研究生、大学院生を指導する。講義時間以外についても、学生からの質問があれば積極的に指導する。		0.35	学部学生に対しては、相対論、統計力学特論、統計力学、力学など必修科目2講義と卒業研究のセミナー指導を行った。力学については口頭試問を実施し、学生の理解度の把握に努め、授業に活かした。また、大学院学生に対しては、物性学特論の講義と特別演習、特別研究の指導を行った。物性学特論については、物性物理学の基礎的な事項から出発して、研究の最前線で行われているテーマについても講義を行った。卒業研究生、大学院生を指導した。講義時間以外にも、学生からの質問があり指導した。
研究	0.35	「強相関化合物におけるf電子の局在・非局在転移近傍の一粒子描像に関する研究」に関して科研費など外部資金獲得を目指す。関連論文を国際紙に投稿することを目標にする。関連する国際会議や所属する学会で研究発表を行う。他大学あるいは他研究所と国内的共同研究を行う。		0.35	「強相関化合物におけるf電子の局在・非局在転移近傍の一粒子描像に関する研究」に関して研究を進めた。他大学あるいは他研究所と国内的共同研究を進めた。
社会貢献	0.15	公開講座を行い中高校生を中心とした地域社会への物理の魅力を伝える。オープンキャンパスにて研究室紹介を行い、研究内容の説明を高校生に行う。幼稚園・小学校や公共施設に出向き、物理実験による科学教育を行う。科学の祭典、青少年科学作品展、県主催の科学教育人材育成事業に参画する。産学官連携として、連携事業を実施し学内の教員とのコーディネートを進める。県内企業を中心とした産学官連携を進める。		0.15	公開講座を行い中高校生を中心とした地域社会への物理の魅力を伝えた。オープンキャンパスにて研究室紹介を行い、研究内容の説明を高校生に行った。幼稚園・小学校や公共施設に出向き、物理実験による科学教育を行った。科学の祭典、青少年科学作品展、県主催の科学教育人材育成事業に参画した。産学官連携として、県内企業との連携でゼロエネルギーハウスを琉球大学内設置を進めた。また、沖縄版ゼロエネルギービル・ハウスに関する研修会を学内で実施し県内外のハウスメーカー60社の参加を得た。
管理運営	0.15	理学部副学部長として学部運営に関して滞りなく進むよう各種委員と連携しながら行う。物理系内システム委員として、メールサーバー、計算機サーバーの管理運営を行う。		0.15	理学部副学部長として学部運営に関して滞りなく進むよう各種委員と連携して進めた。産学官連携推進機構併任教員として、県内外の企業と連携を進めた。次年度、経済産業省や商工会連合会への支援金申請の足がかりを作った。物理系内システム委員長として、メールサーバー、計算機サーバーの管理運営を行った。今年度発足の障がい学生支援室の併任教員として、合理的配慮に関する内容で学内の連携を進めた。IT戦略室室員として、学内運営に参加した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安田千寿	所 属		理学部 物質地球科学科 物理系	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・担当講義のシラバスを受講者へ周知する。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進める。 ・学生が自学自習できる環境を整える。 ・担当する大学院生の学会発表等を支援する。 ・担当する卒研究生・大学院生の就職や大学院進学に関する指導を行う。 			0.39	<ul style="list-style-type: none"> ・担当科目のシラバスや自己評価チェックシートを作成配布した。 ・担当する初年次科目において、高校における修得状況を確認して授業を進めた。 ・大学院生控え室の研究環境を整備した。 ・担当する大学院生3名の日本物理学会での講演を支援した。 ・担当する卒研究生・大学院生の就職に関する指導を行った。 ・全学FD講演会や高大接続改革に関する講演会などに参加した。 		
研究	0.43	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要なコンピューター計算資源を獲得する。 ・論文を作成、投稿する。 ・研究成果を学会等で発表する。 ・科研費の研究課題を推進する。 ・学内や他大学等との共同研究を推進する。 			0.42	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学物性研究所スーパーコンピューターシステムの共同利用申請を行い、プロジェクトが採択された。 ・論文を出版した。 ・日本物理学会や研究会で研究成果を発表した。 ・科研費(基盤研究(C))の研究を推進した。 ・学内や他大学等の研究者との共同研究を推進した。 		
社会 貢献	0.02	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する授業を一般市民や高校生に公開する。 ・学外共同利用施設の運営に協力する。 			0.01	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する科目「物理学入門I」と「物理学入門II」を一般市民や高校生に公開したが、今年度の受講者はなかった。 ・学外共同利用施設の運営に協力した。 		
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・全学学士教育プログラム委員として、業務に従事する。 ・非常勤講師室の世話人として、必要な環境を整える。 ・大学入試や大学院入試に関するデータを収集する。 ・その他の委員会委員の業務に従事する。 			0.18	<ul style="list-style-type: none"> ・全学学士教育プログラム委員として、業務に従事した。 ・非常勤講師室の世話人として、業務に従事した。 ・高校3校での入試説明会に参加し、入試に関する説明を行った。 ・入試に関連するデータを収集した。 ・その他の学内委員の業務に従事した。 		
計	1.00				1.00			

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前野昌弘	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを用いた物理シミュレーション教材のコンテンツを整備するとともに、Webを利用して講義録、教材提供などを行う。 ・高校教員などと連携も図りつつ「教職実践演習」の授業内容を充実させる。 ・大学院生、卒業研究生の進路について、相談に乗る。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然科学のための数学」と「熱力学」においてはコンピュータプログラムを多数作成し、Webにて教材提供を行った。 ・「教職実践演習」では学生に主催させた公開講座が多数の入場者を集めて成功した。 			
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・超弦理論または量子重力などの分野の研究を行い、専門誌に論文を投稿する。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・超弦の場の理論の量子化についての研究を大学院生とともに行い、修士論文として完成させるとともに、投稿準備中。 			
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年のための科学の祭典・沖縄大会」の実行委員長、物理系の公開講座の実行委員を務める。 ・球陽高校SSH運営指導委員を務める。 ・小学校などの初等教育への出前授業等も積極的に展開していく。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業は高校4校、小中学校10校に向けて行った。その他科学関係のイベントに参加した。 ・沖縄県の科学の祭典の実行委員長を勤めた。 ・公開講座は二つ実施した。 ・球陽高校SSH運営指導委員を勤めた。 ・沖縄電力青少年科学作品展審査員を務めた。 ・JST事業「ジュニアドクター育成塾」の講師を勤め、小中学生向けの授業を行った。 			
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・物理系の広報委員として、物理系ホームページを管理する。 ・高等学校への広報活動を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの管理を行った。 ・オープンキャンパスで広報活動を行った。 ・東京および八重山高校での入試説明会に参加した。 			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		谷口敬介	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	学部生に対しては、専門科目「数値解析演習I, II」「光学」と共通教育科目「時間と空間」の講義、および卒業研究指導を行う。コンピュータを使用する数値解析演習ではマンツーマン指導をして学力向上に努め、講義科目では小テストを頻繁に実施して学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、大学院進学を希望する卒研生に対して助言を行う。大学院生に対しては、ゼミ形式の授業「宇宙物理学特論」「物質地球科学演習・研究」を行う。		0.40	授業準備をしっかりと行い、昨年度の講義ノートや演習プリントを改訂した。数値解析演習では、進度の早い学生には追加の演習問題を出題し、より学力をつけられるようにする一方、進度の遅い学生には必要に応じて個別指導を行った。卒業研究では、週1度だったゼミを2月から週2回に増やし、卒業研究を仕上げられるように指導した。大学院生向けのゼミでは英語の専門書を使い、院生の学力向上に努めた。	
研究	0.50	今年度採択された科研費基盤研究(C)「内部状態を考慮に入れた中性子星を含むコンパクト連星の研究」を推進し、関連論文を査読付き国際誌に投稿することを目指す。国内外の研究者と連携を図り、共同研究を行う。		0.40	採択された科研費に関連した研究を推進した。筆頭著者としての論文は投稿できなかったが、査読付き国際誌に投稿した3本の共著論文に対して、掲載決定と出版に寄与した。	
社会貢献	0.05	琉球大学オープンキャンパス及び公開講座に貢献する。国際誌の査読者として貢献を行う。		0.05	琉球大学オープンキャンパスの開催、および国際誌などの査読者として貢献をした。また、物理系に関する案内を沖縄県内外の高等学校に送付する広報活動も行った。	
管理運営	0.10	1年次指導教員として1年生の指導を行う。学部内の広報委員会委員、系内の広報委員として貢献する。また、その他の委員会委員も依頼があれば引き受ける。		0.15	1年次指導教員として1年生の指導を行った。理学部広報委員会委員、物理系広報委員として貢献した。また、その他の委員も務めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		椎名 亮輔	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・新規担当授業の準備を行う。 ・担当講義のシラバスを受講者へ周知する。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進める。 ・学生が自学自習できる環境を整える。 ・担当する卒研究生の就職や大学院進学に関する指導を行う。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・新規担当授業の準備を行った。 ・担当講義のシラバスを受講者へ周知した。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進めた。 ・学生が自学自習できる環境を整えた。 ・担当する卒研究生の就職や大学院進学に関する指導を行った。 	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・研究論文を作成する。 ・研究成果を学会等で発表する。 ・新学術領域J-Physicsへ参加し研究貢献を行う。 ・科研費の応募を行なう。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・研究論文を作成した。 ・研究成果を学会等で発表した。 ・新学術領域J-Physicsへ参加し研究貢献を行った。 ・科研費の応募を行なった。 	
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや公開講座等に参加する。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスに参加し、高校生向けの講義を行なった。 	
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学での運営体制を理解する。 ・代議委員としての役割を果たす。 ・入試準備での役割を果たす。 ・系内での委員としての役割を果たす。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学での運営体制の理解に努めた。 ・代議委員としての役割を果たした。 ・入試準備での役割を果たした。 ・系内での委員としての役割を果たした。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		小田一郎		所 属		理学部 物質地球科学科 物理系		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・担当講義のシラバスを受講者へ周知する。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進める。 ・学生が自学自習できる環境を整える。 ・担当する大学院生2名の指導を行う。 ・担当する卒研究生・大学院生の就職や大学院進学に関する指導を行う。 				0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・担当講義のシラバスを受講者へ周知した。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進めた。 ・学生が自学自習できる環境を整えた。 ・担当する大学院生1名の指導を行う。 ・担当する卒研究生・大学院生の就職や大学院進学に関する指導を行った。 				
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・5本以上の論文を作成し、外国の論文雑誌に投稿する。 ・9月にイタリアで開かれる国際会議で招待講演を行う。 				0.60	<ul style="list-style-type: none"> ・5本の論文を作成し、外国の論文雑誌に投稿した。 ・9月にイタリアで開かれる国際会議で招待講演を行った。 				
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや公開講座等に参加する。 ・学外共同利用施設の運営に協力する。 				0.00	特に活動は行わなかった。				
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会委員の業務に従事する 				0.00	入試に関する業務に従事した。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲間隆男	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	「核の科学」世話人。 専門科目「物理実験学」(前期)、「エレクトロニクス入門」(後期) 「物理実験II」,「物理実験IV」(後期)担当。 教育補助としてTAを活用する。 物理実験II, 物理実験 IV 卒業研究: 卒研究生(3-5人)の指導 大学院前期課程学生(2人)および後期課程(1人)の指導 大学院前期科目: 物質地球科学特別研究・物質地球科学特別演習など		0.40	「核の科学」の世話人。 専門科目「物理実験学」,「エレクトロニクス入門」,「物理実験II」,「物理実験IV」を担当した。 実験補助でTA2名。 卒業研究: 卒研究生(5人)の指導を行った。 大学院前期課程学生(2人)および後期課程(1人)の指導 大学院前期科目: 物質地球科学特別研究・物質地球科学特別演習などを担当。	
研究	0.30	学会への参加 国内および国際学会への参加 論文発表 論文および紀要の投稿 外部および学内資金の獲得を目指す 共同研究を行う		0.30	日本物理学会, その他研究会での研究発表19件。 国際会議発表5件。 論文8編。 東京大学物性研究所との共同研究を行った。	
社会貢献	0.10	オープンキャンパス, 理学部体験ツアーへの参加		0.10	オープンキャンパス, 理学部体験ツアーに参加した。	
管理運営	0.20	系内委員: TA担当委員, 3年次指導教員 学部委員: 教育委員会委員		0.20	系内委員: TA担当委員, 3年次指導教員 学部委員: 教育委員会委員	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		深水孝則	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	共通教育科目の「物理学I、II」、学部専門科目の「物理実験Ⅲ、Ⅳ」、「物理学基礎実験」、大学院教育科目の「誘電体論」の講義を担当する。「物理学I、II」の講義は、適宜小テストなどを行い学生の理解度を確認しながら授業を進める。研究室に配属された卒業研究生及び大学院生の研究の指導を行う。また、研究室に所属している卒業研究生の進路や就職先についてサポートを行う。		0.40	共通教育と学部講義を担当、及び大学院の研究指導を行った。また、物理学I、IIの講義において、小テストや演習問題を取り入れ学習効果を上げた。卒業研究生2名と大学院生1名の研究指導を行った。	
研究	0.35	国際的な学会誌への論文の投稿を行うことを目標として、研究を推進する。		0.35	今年度、国際誌に5編の論文が掲載された。	
社会 貢献	0.10	他大学の非常勤講師として、専門性を生かした教育支援を行って学部学生のコンピュータ技術の向上を図る。教員免許更新のための講義を行う。		0.10	他大学で情報関係の講義を行い、学生のコンピュータ技術の向上を図った。教員免許更新のための講義(実験科目)を行った。	
管理 運営	0.10	4年次指導教員、学部予算編成検討部会委員、自己評価委員会委員、将来計画委員として管理運営に参加する。		0.10	4年次指導教員、学部予算編成検討部会委員、将来計画委員として積極的に活動を行った。	
就職 指導	0.05	就職担当教員として、4年次学生の進路や就職先についてサポートを行う。		0.05	就職担当教員として、4年次学生及び2年次大学院生に対して進路や就職先についてサポートを行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		柳澤 将	所 属	理学部 物質地球科学科 物理系	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に講義する「波動論」は、これまでと同様に講義の予習の促進や、シミュレーションの動画の活用で理解を深められるよう工夫する。新入生相手の「基礎ゼミ」でも、学生の興味・発言を促せるよう動画の活用など、工夫をする。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、目標とした事項を達成することができた。2年次ではあるが、卒業研究など以降の研究・学習への興味を喚起できるよう、来年度は工夫したい。 	
研究	0.45	<ul style="list-style-type: none"> ・内定した科研費「国際共同研究加速基金」を用い、9月からのドイツでの共同研究において当初目標の計算プログラムの改良を達成し、更なる国際共同研究につなげる。渡航前後に自身が執筆する論文を2報投稿する。 		0.50	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ渡航前に自身の単著査読付き論文を一報掲載でき、実験結果の解釈で理論計算による解釈を果たした共同研究成果も複数、査読付き論文誌に掲載できた。 ・当該科研費プロジェクトの中心であるプログラム改良も鋭意進行中である。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・4月下旬にギリシアで開催される計算科学ワークショップで招待講演を行い、研究活動を広める。 ・大規模数値計算に関するプロジェクトを開始するので、関係のある計算科学ワークショップや研究会での成果公開を進める。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・当初予定の国際ワークショップでの招待講演だけでなく、30年1月には国内の有機電子物質の国際ワークショップで研究成果を発表し、3月にはベルリンでのドイツ物理学会でも発表を行い、国際的な社会貢献活動が多くなった。 ・ドイツ渡航前には計算科学のワークショップでも発表を行なった。 	
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・9月より渡欧のため期間は限られるが、カリキュラム委員やデータ管理を中心に系の運営に協力する。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・9月のドイツ渡航前まではカリキュラム委員として、早急に必要が迫られるカリキュラム再編に貢献した。 ・渡航後には、系の担当委員を後任の方にお願ひし、引き継ぎもスムーズに行うことができた。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田原周太	所 属	理学部 物質地球科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	物理学実験で工学部(前期)及び医学部(後期)の1年生への実験指導を行う。物理系1・2年生対象の物理学基礎演習I、解析力学演習で演習指導を行う。また、大学院生を対象とした講義「構造不規則系の物性論」を開講する。研究室に所属する4年次生及び大学院生の指導として研究室ゼミや卒論指導などを行う。		0.35	予定通り、物理学実験、物理学基礎演習I、解析力学演習、大学院講義の授業活動を行った。研究室に所属する4年次生の研究指導も行った。	
研究	0.45	研究対象とする物質に対して高エネルギー量子ビームを用いた散乱実験、分子動力学シミュレーションを実行し、物質構造やイオン拡散等の研究を行う。学内実験室における実験も同時に行っていく。		0.45	量子ビーム散乱実験と分子動力学シミュレーションにより、熔融塩の構造に関する研究を行った。科研費により、新しいワークステーションを導入し、ガラスや液体などの構造不規則系物質の構造モデルに対し、第一原理計算による構造最適化を行えるように研究環境を整備した。	
社会 貢献	0.05	物理系が主催する公開講座に参加し、中高生を対象とした演示実験等を行う。		0.05	予定通り、物理系主催の公開講座に参加し、中高生を対象とした演示実験を行った。	
管理 運営	0.15	系会議へ参加し、学科系の運営に関わっていく。研究科委員会(前期)にも参加する。理学部エコ推進委員会及び安全衛生委員会の委員として活動を行う。物理系懇親会幹事・カリキュラム検討委員会委員として活動する。		0.15	系会議や前後期研究科委員会、教授会、エコ推進委員会、安全衛生委員会、物理系親睦会幹事、カリキュラム検討委員などの運営活動に参加した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山本 健	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	1. 教育においては、物理学の基礎知識が効果的に修得できるように授業内容を構成する。特に、1年次教育では、自律的に学習を進める姿勢の定着を図る。 2. 研究指導においては、学生の志向や意欲に応じたきめ細かい指導をおこなう。			0.40	1. 物理学実験では積極的に受講者とコミュニケーションを図るとともに、レポートの採点ではきめ細かなチェックを心がけた。一方、物理学 I および II は今年度が初めての担当であり、シラバスに記載した授業計画の通りに進められなかった。来年度の授業の改善に生かす。 2. 学生の希望や意見を聞きながら卒業研究のテーマを決定した。意欲的な学生とは頻りに研究の進め方に関する議論をおこなった。		
研究	0.30	社会物理学およびパターン形成現象の分析手法を理論的に整備する。各種手法を用いて実データの解析をおこなう。これらに関するテーマで科研費および他の研究助成金の獲得を目指す。			0.30	1. 社会物理学および数理物理学に関する論文をそれぞれ出版した。 2. 位相幾何学を応用して樹状フラクタルの構造を調べる研究で科研費に応募した。また、娯楽映像作品のキャラクターのサイズ分析に関する研究で民間団体の研究助成を獲得した。		
社会 貢献	0.10	社会現象の数理物理学的な分析を専門としているので、研究成果を直接的に社会に還元する方策を探求する。また、諸問題から研究課題を見出し、社会のニーズに答えることを目指す。			0.10	1. 社会物理学の研究として、法律の条文数に関する分析およびスポーツのデータ解析をおこなった。 2. 日本物理学会ジュニアセッションの1次審査に携わった。		
管理 運営	0.20	1. 全学大学院教育プログラム委員として、大学院版URGCCの制度設計を推進する。 2. 理学部紀要編集委員として、理学部の各分野の諸成果を発信する。また、今後の紀要のあり方を検討する。			0.20	1. 全学大学院教育プログラム委員として、大学院版URGCCの策定および全学共通コア科目の準備を推進した。 2. 理学部紀要編集委員として教員の研究業績のとりまとめをおこなった。また、今後の紀要のあり方を検討した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浅海 竜司	所 属		理学部 物質地球科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	琉球大学理学部物質地球科学科の3年次指導教員を担当する。「地球の科学(必修, 学部1年)」、「海洋地学実習(必, 分担, 学部1年)」、「基礎ゼミ(必, 学部1年)」、「古環境学(専選, 学部2年)」、「炭酸塩地球科学(専選, 学部3年)」、「海洋地学研究法I・II(必, 学部3年)」、「地史学実習(選, 分担, 学部3年)」、「地球環境学特論I・II(選, 院生)」、「海洋地学セミナーI・II(必, 学部4年)」、「卒業研究I・II(必, 研究室所属学部4年2名)」を担当し, 学部1年から院生までの各学年層に適した内容の授業を提供する。留年することがないよう, 毎週~隔週で卒業研究(学部4年生3名所属)の進捗状況を確認, 指導する。			0.00			
研究	0.45	採択された科学研究費「若手A:代表」「基盤A:分担」の研究に従事し, 炭酸塩生物・堆積物に基づいた現代~過去の環境解析研究を実施する。本学理学部および部局外との国際・国内共同研究(20件)を推進し, 第四紀気候変動解析研究を実施する。随時, 成果を査読付ISI国際学術論文, 国内国際学会等で発表する。なお, 申請中の科学研究費「挑戦的研究(萌芽):代表」「基盤研究A海外:分担」「基盤研究S:連携」が採択された場合は, これらの研究にも従事する。			0.00			
社会 貢献	0.05	国内外の学会(10件)に所属し, 一般社会・中高生へ地球科学の情報等を発信し, 学会の発展に貢献する。			0.00			
管理 運営	0.10	琉球大学理学部理学部教授会, 理工学研究科(前期)委員会, 理学部物質地球科学科会議に参加し, 管理運営に関わる。各種委員会(保有個人情報管理委員会, 情報公開委員会, 広報委員会, 安全衛生委員会, 学生支援委員会)を務める。			0.00			
計	1.00				0.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	